

# 福崎町文化

第35号 平成31年3月1日 兵庫県神崎郡福崎町福田176番地の1 福崎町文化センター発行



太平楽 (部分) 松岡映丘 画  
福崎町 柳田國男・松岡家記念館 蔵

# 日本遺産 銀の馬車道の歴史講話

一般社団法人馬車道ひめじ応援の会

代表 澤 木 正 幸



## 1 はじめに

福岡町文化協会の依頼で平成30年5月27日、「銀の馬車道の歴史講話」と題し講演する機会をいただきました。更に、今回このような寄稿の機会を頂き嬉しく思っています。

銀の馬車道の歴史講話も話しましたが、私は「一般社団法人馬車道ひめじ応援の会」を平成28年7月1日に設立しました。

設立目的は、民の立場で銀の馬車道を、特に姫路市内を応援したいとの思いからです。主な活動内容は、銀の馬車道に関する歴史講話・案内ガイド・歴史研究です。

## 2 銀の馬車道について

ア 銀の馬車道（商標登録）



開墾の終わった西光寺野

出典：『西光寺野普通水利組合耕地整理組合事業』1915(大正4)年

查がなされた結果、6年12月に明治政府から正式認可され、約2年半の期間をかけて9年5月に日本初の官営の高速産業道路「生野鉦山寮馬車道」が完成しました。その後、明治28年に播但鉄道（生野～飾磨間）が開通して、輸送の役割を終えましたが、国道・県道・市道・町道等になって地域の基幹道路として利用されています。当時の面影は少ないですが、沿線地域では僅かな面影と建物などの貴重な歴史遺産があります。

最初は、昭和62年頃に生野町が「生野鉦山町物語」の本を発刊するため、馬車道沿線49キロの実地調査の時期に遡ります。その時の実地調査では、地域の有志の方が5名程度3班に分かれ、馬車道沿線を丁寧に訪ね歩いての聞き取り調査やルート確認を行うとともに、明治初頭からの建設経緯などの古い資料を関係市町教育委員会が中心となってまとめられたのが最初です。その後、平成8年頃に中播磨地域の沿線1市6町（姫路市・生野町・

正式名称…生野鉦山寮馬車道  
明治維新後、明治政府は欧米にいち早く追いつくため、殖産興業と富国強兵を力強く進めようと、生野鉦山を国営化し、銀を増産して（当時は銀本位制）明治政府の財政基盤の

確立が急務でした。銀を採掘・精錬するために、飾磨から生野へ石炭・塩・大型機械・日用品などの物資を運ぶ、道幅が広くて、高低差が少なく馬が走りやすい馬車専用の道路が必要となりました。馬車道の総延長距離は、生野鉦山～飾磨津間の約49キロです。明治6年7月から生野鉦山の責任者である朝倉盛明が中心となって明治政府に幾度となく陳情を行うこと共に、実施に向けての事前協議・調

これらのことを物語として地域を繋いだのが、日本遺産となった「播但貫く銀の馬車道・鉦石の道」です。特に市川水系の沿線の各市町を繋ぐ広域観光の宝さがし事業の成果です。

## イ 中播磨の地域歴史遺産

昭和50年代までは、「生野鉦山寮馬車道」は忘れられていました。中播磨地域は、日本の産業の近代化の先駆け地域でありました。

世界遺産の姫路城だけでなく、「銀の馬車道・鉦石の道」は、新しい広域観光ゴールデンルートです。

銀の馬車道のこれまでの取り組みについて説明します。

大河内町・神崎町・市川町・福崎町・香寺町)と中播磨県民局との企画部門の会議において、市川流域の地域活性化方策の会議がありました。

その会議時に、市川水系には明治初頭に、鉾石を運ぶ道として「生野鉾山鞍馬車道」があったことが取り上げられ、それを地域振興策とし推進するための組織を、平成10年に沿線市町で構成する「市川流域アメニティ推進協議会」が設立され、市町の財政支援により推進されました。

また、その時のメンバーが、銀を運んだ道なので「銀の馬車道」の愛称をつけての意見もあり、これを取り入れての推進が図られました。

更に拡充方策として、中播磨県民局が主体となって沿線市町及び商工会等(50団体)を再編成して「銀の馬車道ネットワーク協議会」を平成19年に設立し、各市町からの財政支援金を拡大しての予算化を図り、更に中播磨県民局の組織に銀の馬車道担当を配置して、本格的、かつ総合的な推進事業となりました。

また、愛称の「銀の馬車道」を商標登録しての活動が行われました。

それらの活動成果が広く県・市・町や関係団体、更に国に認められ、平成19年度に近代化産業遺産、24年

にプロジェクト未来遺産、29年に日本遺産となり、見事トリプル遺産の認定となりました。

これも、30数年にわたる地道な努力が、報われた結果と思います。

### ウ 播磨と南但馬の歴史

#### (江戸末期〜明治維新前後)

#### 播磨(市川流域)の歴史

幕末までの姫路藩は、徳川譜代の名門酒井家(15万石)が1749年から幕末まで長く藩主を勤めました。また、北部では、鳥取池田家の流れをくむ福本藩(1万石を旧神崎町と市川町で兄弟分割)の2藩が市川水系の中播磨を治めています。

姫路藩は江戸末期の1808年には、73万両の大借金がありました。名家老の河合寸翁により、殖産興業振興(姫路木綿・船津瓦・朝鮮人参・皮革等)を図り、特に、姫路木綿は、大阪を通さず江戸への直接販売と専売権を取得して、27年後の1835年には大借金を解消して藩の財政は持ち直しました。

そのためかどうかは解りませんが、彦根藩の井伊大老(1860年・桜田門外の変)の後に、長く空席であった大老職や、将軍に信任が厚かったことにより老中職や幕府の要職を

歴任して播磨は徳川を支えました。

明治維新後は、新政府から、徳川家・会津藩・桑名藩に次ぐ、朝敵3等の藩として厳しい措置を受けます。そのためか姫路藩から姫路県になった時もありましたが、直ぐに飾磨県となり、その後、明治9年には兵庫県に合併されて現在に至っています。

#### 南但馬(生野鉾山)の歴史



昔の鉾山入口

807年(大同2年)に生野銀山が開坑し、1542年から本格的な採石(山名氏)が始まっています。

織田・豊臣から徳川時代は生野金山・銀山奉行所から生野代官所へ天領となり、時の政権の屋台骨を銀山で支えました。

生野代官は、生野銀山と周辺の但

馬・播磨・美作の地も合わせて幕府の直轄地の天領として約8万2千石の知行地を持っていました。幕末時には素掘りの採掘工法では採掘が限界となり、銀の産出は少なくなっていました。

### エ 馬車道建設の計画までの経緯

#### 新しい日本の近代化(殖産興業と富国強兵)に銀が必要

明治政府には、殖産興業と富国強兵には、欧米の力(技術と人材)が必要、そのためには生野の銀の増産による財源確保とフランスの鉾山技術による採掘・精錬が必要でした。

当時の世界貿易の交換通貨は銀本位制であったことから、明治政府は、いち早く薩摩藩士でヨーロッパ(薩摩藩英国留学生の1人)帰りの朝倉盛明とフランス人の鉾山技師コワニエを明治元年10月に二人を生野鉾山へ派遣しました。

着任後、二人は明治元年から4年夏にかけて新たな鉾脈の発見や、西洋の大型機械などを導入しての採掘を開始して成果は上がっていました。

しかしながら、4年10月に、新政府に対する地租改正の不満、米価暴騰・水害などが重なり不満となり、播但地区、170か村1万人超が集結し

ての農民一揆である播但一揆が起こっています。

この播但一揆は、福岡町辻川・市川屋形から始まりました。その激しさはというと、北は市川町屋形から生野銀山へ行き、新たに立ち上げた生野銀山の施設・機械を全て焼き壊しました。

南は福岡辻川の三木家の蔵等を燃失後、船津町の人参役所を焼き払い香寺まで進みましたが、武力に勝る生野銀山・姫路県により数日で鎮圧されました。

その後、直ちに生野銀山を再建するため明治5年から、朝倉盛明を中心に明治政府に陳情して生野・飾磨津間の馬車道建設計画が検討され天皇へ上奏を経て正式に6年12月に着工が承認されました。

当時の朝倉盛明と中央政府の人間関係は凄いです。地元の長は、薩摩士族の森岡昌純飾磨県参事（後の兵庫県知事）、中央には伊藤博文工部卿や遠藤工部太夫（次官）何れも長州藩士族で、且つ、英国での長州藩留学生で、旧知の間柄でもあったことも成功の要因でした。

### 建設時の主な人物（功績者）

何ととっても、朝倉盛明とコワニ

エの2人ではないでしょうか。

朝倉盛明（鉾山長）

田中静洲（改名前）天保13年（1

842生）



朝倉盛明  
(1843~1925)

薩摩藩の下級武士の子と生まれ秀才で、15歳の時に長崎で蘭学を学び、薩摩藩校の講師を務めた後、薩摩藩英国留学生の一員に選ばれて、イギリス・フランスで語学と鉾山学を学び、パリ万博の薩摩藩の出展会場の通訳として活躍しています。

1865年3月薩摩の串木野羽島港から出航、約3か月をかけて5月末にロンドンへ到着。

研修生15名と外交使節4名計19名の若者でした。

イギリスには、先に長州藩からの5人（遠藤・伊藤等）もあり、薩摩藩と既に薩長同盟は英国で芽生えています。また、イギリスで学んだ記念碑もロンドン・ユニバステイ・カレッジに残っています。

1867年（慶応3年）9月帰国し、薩摩藩校のフランス語教師に復帰し、その後、上海までコワニエを

迎えた後、コワニエとともに、生野へ1868年（明治元年）10月に入りました。

爾来、26年間、病弱な妻を大阪に残し、単身の身で雪の但馬での生野鉾山長として大活躍しました。

1894年（明治26年）に、病氣により辞職して生野を去り、その後、大阪の土佐堀から、京都の今出川へ転居し、大正13年没（82歳）しています。

朝倉盛明の碑としては、生野には「盛明橋」の名を冠した橋と姫路市砥堀の生野橋の袂には、朝倉の思いを綴った生野橋修築碑が残っています。また、故郷の鹿児島県のJR鹿児島中央駅前には、薩摩藩英国留学生19人の銅像が有ります。また、いちき串木野市羽島の同記念館には、朝倉の展示物はかなりあります。また、京都市の百萬遍知恩寺に大きな墓があり静かに眠られています。

お雇い外国人第1号（フランス人）  
ジャン・フランソワ・コワニエ



コワニエ  
(1837~1902)

慶応・明治元〜10年1月の間、生野在住。月給800円（1835〜1902）67歳没。

当時のお雇い外国人は、生野に、常時15人程度いました。

職種は鉾山師・地質家・道路建築家・医師・製鋼師・焼鉾夫・鍛冶職・溶接師・煉瓦職人などです。

コワニエは、フランスの国立サン・テチェンヌ鉾山大学を卒業後、フランス国内やアメリカの鉾山技師として活躍していましたが、薩摩藩の強い招致により、1867年（慶応3年）五代友厚と朝倉盛明が中国・上海で出迎え薩摩へ、同年11月8日にマリイ夫人とともに来日し、生野へは、慶応4年（明治元）10月に朝倉盛明と一緒に来ています。

明治10年1月まで生野に在し、鉾山学校を明治8年8月に設立し、全国の鉾山への技術指導に関わり生野から全国の鉾山の技術者を育てました。

着任当時は、約300年の手掘りによる地表の採掘は取りつくしていたが、地下には鉾脈があることを発見、火薬の発破や地下水の排水、大型機械による採掘などの鉾山技術指導を行いました。

レオン・シスレー（フランス人）  
（コワニエの妻マリーの弟）



シスレー  
(1847~1878)

設計技師。

銀の馬車道の経路決定の図面と道路建設工事（マカダム式）の責任者として約5年間に住んでいます。

また最近では、シスレーの父親が造園家でシスレーがフランスへ送ったノイバラの種子が改良され人気となりました。東日本大震災の支援をきっかけに生まれた「薔薇の絆」は、馬車道がたぐなく日仏交流の「絆」としても沿線に植えられています。

3つの案について（舟・汽車・道路）

大型機械・日用品などの輸送手段の効率化を図るため馬車道の新道建設の3案での検討を明治5年頃から政府と折衝しています。

天候に左右されず、速く、安全に輸送できる物流ルートを具体的に調査・検討しています。

### ①市川堀割案船の利用

当時は、市川の川辺まで高瀬船が来ていた。そこで、川辺へ生野の間の浚渫での対応と考えましたが、しかしながら、渇水時に水量が少ない。川辺の上流の浚渫もしたが石が固く経費の増が大幅に見込まれるため断念しています。なお、高瀬舟（長さ11m・幅2m・6トン）です。

### ②鉄道築造案 鉄道の新設

新橋〜横浜間が、明治5年10月開通（280万）

神戸〜大阪明治7年5月、大阪〜京都明治10年2月開通。

姫路〜生野間の検討はされましたが、経費の増と利用見込が少ないため断念しています。

### ③新道築 道路建設

経費が最も少なく工期も短く、早急に輸送体制を確保したいため決定されました。

明治6年12月

工部大臣伊藤博文に認可。

同 8年8月

生野橋完成

同 10月

飾磨津物揚場完成

同 9年4月

工場・機械等完成

5月

伊藤博文工部卿の出席により開業式が行われる。

また、伊藤工部卿は新設された馬車道を通って生野へ来ました。

### 道路工法 マカダム式

（ヨーロッパの最新技術工法）

道路を水田より60cm高くし、あら石、小石、豆砂利の順で敷き詰める舗装技術です。水はけが良く丈夫な道になり、重たい荷車も馬が引く張りやすい道です。当時の欧州での最先端の道路工法。

マカダム式の道路経費は、8万8384円。現在の金額に換算すると4万倍（35億円）当時の国家予算は、6270万円で内訳は、

道路建設5万2500円（建物撤去・敷地買収・波止場）

土地買上費用2万5884円

シスレー経費1万円。

馬車（馬と人と荷車が一体）

江戸時代

武士は馬に乗り、荷物は馬で引く、人は背負う形態で輸送。

井川・関所・通行手形・橋なし。年間の輸送量8500トン

石炭8100トン、塩200トン、雑物200トンの輸送。

灰吹き法↓混こん法の製法に必要な合金を作るため多くの石炭と塩が必要。

馬車1車当り1・1トン積み

1か月 700トン、

1日当り 23トン、時速6キロ、

3回程度休憩。

一日 10時間程度

当時の道幅は、2m程度（但馬街道・生野街道）で、人の往来での運び、荷車で運べなかつた。

朝出発午後2時ごろ西光寺野の立場（休憩所）夜飾磨着時間は12時間。立て場は、福崎の辻川、船津、豊富太尾の3か所にあつた。

才 建設時の困難な主な工事と逸話を紹介

橋の整備が重要。

木橋7・土橋15 計22橋。

市川を生野の盛名橋で渡り、砥堀の生野橋で市川を渡る。

姫路城下から飾磨津へ馬橋の名称の橋は神河町と船津町に2つ残っています。

道路幅の拡張です。

生野〜屋形間。道幅6m「3間」  
屋形〜飾磨間道幅7・57m「4

間」

一里毎（4キロ）に4人の人夫を配置し道路管理をしました。

#### ◆生野町（朝来市）

新道生野峠へ登るために真っ直ぐな道を作り、今なお新道と言われている。

最初の橋は、盛明橋です。

（市川の右岸へ）

生野峠（362m）を超える

#### ◆神河町

生野峠を緩やかに下るために、ヨードルの森へ播但自動車道の側道へ神崎北ランプまでの緩やかな道を作りました。

312号線から南下し、吉富（畑川原池）には、今も残る馬車道があり風情がある。

越知川を渡って観音橋へ、そして栗賀の町へ入る。

宿場町の福本には古い町並み馬橋も残っています。

#### ◆市川町

屋形村から飾磨県森岡知事と生野鉦山長への嘆願書提出。

明治4年10月農民一揆の拠点地で激しかったので、他の経路案で実施予定だったが、宿場町・屋形の町が寂れるので、宿場町を通るよう経路変更の陳情を行っています。

飾磨県参事には、明治6年12月、7年2月に提出。

生野鉦山長7年1月提出。

この熱意が実り、経路変更が認められて、飾磨県からの移転費用が支払われ、お礼金の証が案内板として残っています。

#### ◆福崎町

辻川の道の拡張。接道した住宅等を移転させて2間引いて道路に提供しています。

辻川は但馬道・北条街道・山崎への道の分岐点。

大庄屋三木家では、柳田国男が2階で学んで日本民俗学の祖のゆかりの地です。

西光寺野土地改良区の水路が大正3年に完成。

340ha、延べ8・8キロ。

南北8キロ、東西3キロの広大な

土地で、市川と平田川に挟まれた台地のため池への疎水が必要。

ため池に沿って、馬車道が作られ一部と堤防となって残っています。

#### ◆姫路市北部

船津には大きな立て場がある。

河合寸翁（姫路藩家老）が、1819年岡庭小平太に命じ人參役所を開設し人參栽培を奨励する。

明治4年播但一揆の時に焼き討ち

にあったが、馬車道の開通時には酒造業して再生して現在も酒屋を営業されています。

船津瓦（立て場瓦）もあります。

また、豊富にも立て場があり、馬橋も残っています。

#### ◆姫路市南部

生野橋を右岸へ現在は3代目。2代の欄干は生野書院に保存されている。

橋脚は22本の橋（最難関工事）

明治8年8月8日に完成。

長さ93間（167m）

幅3間5・4m

馬車道が完成した時に朝倉盛明は、最も工事が難しかった「生野橋」の近くに記念碑の修築碑が残されています。

市川堤防沿いに高木へ大日保城へ下る。

#### ◆城東小学校

姫路市京口町の外堀川を半分埋めて馬車道を造る。外堀側道には城東小学校があります。

#### ◆姫路駅周辺

姫路駅を横切る。

地場産ビルを斜めに横断して飾磨街道へすすむ。

南畝町へ  
飾磨門と飾磨街道（江戸時代から）

亀山本徳寺は（浄土真宗本願寺派）英賀御堂から1582年に移転。

池田輝政の時に、三佐衛門堀（幅

25m）の土砂を飾磨区玉地の向島を埋め立てて、藩船奉行所を設置。

1632年。（城付の船奉行）

飾磨門を連絡する道が飾磨街道で、飾磨街道は、既に江戸時代にあつたので、この道を銀の馬車道として活用。



海から見た飾磨津物揚場

飾磨津物揚場（70万個の煉瓦塀）、銀の馬車道の始・終着点です。

浅田化学工業の煉瓦塀や周辺の埋立てに生野のカラミ石が使われています。工場内にある煉瓦倉庫は明治初頭の建物で貴重です。

また、敷地内には浅田貞次郎の座像も残っています。

力 銀の馬車道の開通後（明治9年）の変遷について

国道・明治政府直轄（明治9年）

県道・兵庫県管理（明治12年）

播但鉄道の開通（明治28年・生野〔飾磨〕）

馬車道の廃止（大正9年）

国道・県道（218号）・市道へ

飾磨港線の廃線（昭和51年）

生野銀山の変遷

明治政府直轄（明治9年）

宮内省御料所（明治22年・菊の門柱）

播但鉄道の開通（明治28年）

生野の浅田貞次郎や市川の内藤利八が建設に尽力

民営化で、三菱合資会社への払い

下げ（明治29年10月）

生野鉱山の閉山（昭和48年）

明延鉱山の閉山（昭和52年）

（これ以降の状況については、省略します）



史跡生野銀山坑内

キ 沿線で活躍された著名人

明治時代は、日本の中でも先駆けで発展した、銀の馬車道の沿線地域ですが、そこからは多くの著名人が生まれて活躍されています。その中で、個人的ですが、福崎町の松岡兄弟。特に日本民俗学の祖の柳田國男先生と、最近百歳で亡くなられた橋本忍さんではないでしょうか。故郷との便りなどが多く残っております。

3 今後の目標（私の夢）について

① 鉱石の道との連携

この度、日本遺産になったこと

でもあり、更に、鉱石の道と銀の馬車道との連携強化事業が必要。

② 海の道の推進

飾磨津・姫路港へ世界への海の道

飾磨津へ大阪の造幣局・香川の直島への道

③ キーワードの活用

銀・明治・フランスの三つの言葉 キーワードとして活用します。

飾磨街道は銀の馬車道との観光街道づくり。古民家も残っています。

④ 次の目標

50年後を目指して、世界遺産を狙う。

現状では、石見銀山（平成20年世界遺産）が、既に、日本で唯一の鉱山として認定されています。

佐渡金山は、暫定候補として平成26年から活動しているが、世界遺産登録は厳しい状態です。別子銅山も熱心だが、更に、厳しい。

このようなか中で、これらを上回る魅力が、銀の馬車道に必要です。

それには、何よりも各市町のブラッシュアップです。

特に姫路市内で残る歴史遺産を大

切に、具体的には、生野橋修築碑・浅田化学の煉瓦塀・飾磨街道だと思えます。

残された歴史遺産を上手く繋いで、銀の馬車道ファンを掴み姫路城とともに中播磨に光を当てることだと思います。

4 おわりに

何事も、継続は力なりです。行政との連携は必要（特に資金面）。

福崎町の皆様はお分かりです。

私が福崎町と関わった10年前は、銀の馬車道と言っても、もちむぎの館での展示と銀馬車ラーメンと田原小学校での銀の馬車道劇団の評判でした。

それから福崎町が力を入れられ今日のもちむぎの館周辺の施設が充実してきました。

今後とも皆様方の厚い思いを行政に強く訴えて頂ければ、必ず電報電話局の建物跡も、観光スポットとして改装となった三木家ともども脚光を浴びます。

応援を継続させてください。

参考資料：リーフレット「プロジェクト未来遺産銀の馬車道」銀の馬車道ネットワーク協議会発行

# 福崎町文化に貢献した人

## 木村真康氏について

松田 八束



はじめに

現在、福崎駅前風景は再開発です。すっかり様変わりしている。日に日に変わる姿を見て、期待におおきく胸を膨らませる方もあれば、昔の風

景を何らかの形で残して欲しいという気持ちを胸の奥に仕舞い込んでおられる方もあるのではないか。そこで駅前の思い出を綴り、此処に投稿する。

福崎町文化に貢献した多くのの方々について、福崎町文化第三十四号に掲載された内山嗣隆氏の「歌人の足あと」の中に、駅前で長年活躍された方がおられる。

そこに触れられている木村真康氏に焦点をあて、筆者が特に心動かされたことについて述べていきたい。



写真一 前列左から 榎本兼夫 阪口保  
後列左から二人目 岸原広明 木村真康



図一 真康氏周辺の師弟関係



写真二 左から 西部治夫 岸原広明  
前田夕暮 木村真康 阪口保

### 真康氏の略歴

彼は、明治三十九年、市川町上瀬加で生まれた。小学校卒業後、文学を志し、大阪・京都・東京等各地を放浪遊学した。大正十一年、阪神住吉で運送店員をしていたとき始めて東京の少年雑誌に短歌を投稿して、特選となりました。十六歳のときだ。昭和二年、二十一才、帰郷して瀬加村営バス会社に就職し、盛んに短歌修行をした。榎本兼夫、椋野秀樹等と、文芸誌「若人」「龍騰(りんどう)」等発行(写真二)。昭和三年、林猛先生を知り、短歌にのめりこんでいった。昭和五年、白日社入社、歌人前田夕暮、阪口保両先生に師事(写真三)「図一」。

終戦の年、昭和二十年十二月には、若人達の夢と希望を育めるようにと、「文学圏社」を創立。機関誌「文学圏」は現在も発行され七百五十六号(平成三十一年三月)に達する。市川町・福崎町の方もかつてはたくさん同人として、参加されていたが残念ながら現在は少なくなった。福崎駅前の木村真康氏の経営するタクシィ会社の営業所が文学圏社「図二」の活動拠点だったが、晩年には、市川町の石妙寺に移った(現在の活動拠点は神戸市)。

### 追憶

福崎駅前には播但線の中核駅に相応しく、沢山の自転車預かり店、銀行、百貨店をいくつかの商店が在った。福崎駅の正面玄関の真向かいに、真康氏の経営するタクシィ会社の営業所があり、間口二間程の小さな建物で古ぼけた板壁の色が田舎の風景によく溶け込んでいた。向って左の入口から入って、右の部屋は土間で、正面に駅の玄関が見えた。ある日、私は始めてその営業所へ、父に連れられて行った。ひとりで駅の玄関が見える部屋に入ってみると、質素な木机と椅子が置かれていた。そこには、二人の若いおじさんがい

て、一方のおじさんが小学生の私に「ぼく、この机は君のお父さんのものだよ！此処で一番歌（短歌）が上手いんだよ。すごいだろう！」と言って、私の反応を見ているようだった。私はその時、少し可愛げがなかったが、黙っていた。この小さな空間は文学好きの青年が集う大切な場所なのだなと感じた。

父松田道別（どうべつ）の出征後に生まれた私が始めて父を知ったのは、三才になって暫くたった真冬だった。来客があり夕方になって家に居るので不思議に思い母に尋ねたところ、よそのおじさんだと思っていた人が自分の父であるを知り衝撃をうけた。母も私が尋ねる迄に、何の説明もなかった。私の父道別は、敗戦の色濃くなった昭和十七年出征した。衛生兵として満州、台湾、フィリピンと転戦し、終戦の翌昭和二十一年一月、失意に打ちひしがれて復員した。そして短歌好きであった父は真康氏と親交を深めるようになり、真康氏を中心に仲間が集まって、文学圏の短歌会を定期的に開いているようだった。それ以降、折に触れて、矢谷水青、岸原広明、木村真康、父道別（どうべつ）達の作品を文学圏紙上で見る機会があり、さらに身

近に感じる事ができた。

### 福岡町文化への貢献

#### — 真康氏の決意の原点 —

あるとき、真康氏から直接こんな話を聞いたことがある。

「自分が若い頃、東京のタクシー会社につとめていたとき、ある日、書生風の青年が入社してきた。どこか人を惹きつけるところがあるなと思った。いつだったか、客が全く来ない日があった。一日中会社においても仕方ないので、帰宅する人がある中、自分もそろそろ帰ろうかと思っていると、『わたしひとりで、留守番するから帰ってくれていいよ！』とその人は言った。若いのに遊びにも行かないで、独り留守番役を買って出て、机に向って難しい本を読んでいる。頼もしい人がタクシー屋にも居るものだと感心した。この書生が、後に民社党を創った西尾末広だった。」

真康氏は、この書生に感化され、放浪遊学にピリオドを打った。郷里に帰って播磨の青年達に夢と希望を与えるようなことをしようと決めた。ここに、真康氏の行動の原点があると思われる。

### 貢献（その一）文学圏社の設立

真康氏（年齢から兵役は無かった）は、先に触れたが、昭和二十年十二月、文学圏社創立、翌年四月「文学圏」創刊号を発行した。当時の気持ちを、後の昭和五十六年一月文学圏三百号の記念誌に、「今日を記録する」と題して、次のように書いている。――終戦直後の社会情勢は実に暗澹たるものがあつた。敗戦の衝撃は農村の青少年の純な心を蝕んで彼らは退廃的な気分の中で毎日墮落に結びついていつていた。こんな状況の中で私と岸原広明、西部治夫の三人は、郷土色豊かな文芸雑誌を作つて、青少年らの情操教育の場をもつとつた。――（図二）。

昭和四十二年「詩歌」復刊号に参加し、同人となる。前田夕暮の没後十六年後のことであつた。



図二 昭和五十六年頃の文学圏社幹部構成

### 貢献（その二）

#### — 柳田國男生家移築 —

柳田國男生家は元来、辻川の、銀の馬車道街道筋に面してあつた。変遷があり、後に、移築が取壊しかの議論が起つた。取壊しが決まりかけたとき、真康氏は立ちあがった。「福岡駅に降り立つ人のうち、全国からの殆どの人は、柳田國男生家を訪ねてくるのだよ！そんなことしたら、福岡町は全国の物笑いの種になってしまふ。」と言つた。すると、「移築するには、百万円かかるのですよ！その金は誰が出すのですか？」という声もあつた。真康氏はその言葉に「その金は自分が出す。私が寄付を集めてみせる！」と声を荒げた。そのあと、商工会に協力を呼び掛けた。その折、伊藤青年（後出する伊藤源五氏）が、賛成してくれて、大いに勇気づけられたと、人に語っている。元兵庫県知事阪本勝の力も大きく働いて、昭和四十九年、この移築事業が成功した。この時より三十年も前に折口信夫が柳田生家の当時の所有者に文化財としての保存の大切さを訴えていた。

今日の辻川地区隆昌の基を築いた先人の努力を無にしなかつ真康氏の人柄のおかげではないかと考える。

## 貢献(その三)

### 「山桃忌」の創設

柳田國男とその兄の井上通泰の祥月にあたる八月に、二人の偉業を偲んで「山桃忌」が開催されている。

「山桃忌」の名前はふるさとを詠んだ二人の歌に、幼い頃に遊んだ山桃の木が出てくることに由来する。

「柳田先生兄弟の偉大なことは申すまでもないことである。こんな偉大な人達を出した福岡町は、もともと郷土を誇っている筈である。」と常々思っていた真康氏は、柳田國男生家の移築の件で、多くの協力者を知り、福岡町が郷土の誇りを持てるとして、喜んだ。山桃忌は地元で活躍する伊藤源五氏が提案し、木村真康氏は短歌の道で築いた人脈を活用され、心ある有志達が協力して開催されるようになった。

昭和五十五年八月十日柳田國男兄弟追悼会として木村真康氏、矢谷水青氏が出席した。これが第一回の山桃忌である。

山桃忌奉賛短歌祭は、それを提案された大善寺の棟廣照文氏と共に、高齢になられた真康氏と文学圏及び福岡短歌会の熱意によって、昭和六十一年十月十二日に第一回がおこなわれた。第二回以降は、山桃忌に合

わせて行われている。初期からの山桃忌は柳田國男生家で行われていたが、第二十六回以降、文化センター、そしてエルデホールに場所を移して行われるようになり、多くの人達の参加が得られている。

観音寺境内に、通泰の歌碑を建てたのは、真康氏が中心に熱心に働きかけたからだ。

「うぶすなの杜のやまももふる里は  
はかなきことも恋しかりけり  
通泰」

## 貢献(その四)

### 「福岡音頭」の作詞

福岡音頭の歌詞は、みんなが育つたふるさとの香りを、いっぱいつけている。歌詞そのものを此処に書く紙面が無いので省く。一番から五番までの全ての出だしは「はりま福岡」で始まり、一番は先ず「みどりの町よ」と歌い、県下八景の一つ、七種四十八滝が描かれ、山深い溪で修行した聖達と山岳信仰を想起させる。

二番は、「ロマンの町よ」と続き、春日城山と鍛冶屋部落のかくしほちよじの今に伝える祭りの中に八千種地区のみなさんの情熱が写されており、それが未来へ繋がって欲しいと願っているようだ。

三番は、「文化の町よ」と言い、田原の文殊さんと柳田國男生家や、町づくりの鍵である民俗学が、そこにあると教えている。

四番は、「お米の町よ」と振り返り、美しい山川から集まる水、清らかな空気、太陽で育まれるお米が、七種川・市川流域の田園地帯に秋毎に稲穂が黄金色に波打ち続けて欲しい、それが変わらぬ願いだと唄っている。

五番は、「かなめの町よ」と結んでいる。交通の要衝インターチェンジを示し、古くから東西南北の往來を結ぶ位置にあることをうたっている。福岡音頭は、昭和五十一年八月九日付で制定された。

歌は五番でおわる。真康氏は、第六番目の歌詞を、吾々に、宿題として残して置いていたと解釈したい。

このように思う根拠が真康氏の随筆(「文学圏」昭四二・八)に、「ふるさとの味」と題した一節にある。

「こうした田舎には、田舎特有の楽しい空気が満ちていた。郷土色豊かな情緒と、素朴で純真な人情が漲っていた。こんな中に育った子供達には、楽しい思い出と、なつかしい自分だけの胸に生きた土地があった。山川草木みな幼い自分が生きていた。遠い祖先が歩いて来た足跡があった。

みなこの時代の田舎に育った者の身についた、ふるさとの匂いであった。

「おわりに―ふるさと愛のこれから―

真康氏を知られば知る程に、郷土愛にあふれた人だと誰もが思うだろう。IT・AIの発達する時代に順応することと共に変わらぬ故郷への愛が大切だ。

駅前の小さな営業所の、質素な机と椅子があった部屋こそ、文学圏社誕生の場であり、真康氏の貢献を生み出した場であったことを忘れないでほしい。

「雪白く置きたるままに春たちし  
はりま高嶺に光る陽のいろ  
真康」



写真三 昭和45年、真康氏64歳の時に、功を記念して、文学圏社が石妙寺境内に彼の歌碑を建てました。

## 三吉ギツネにっしん

八千種小学校四年 内藤のこ



## ◆調べようと思ったきっかけ

わたしの村には「きつねのおろよ」というものがあります。男の人しか参加できないので、わたしは行ったことがないのですが、トンドの後、外で待っていると「きーつねのおーろよー」、「おーろおーろおーろよー」と大きな声が聞こえてきます。

お父さんに聞くと「昔、山の中で化けて人をよくまよわせたキツネがおったんや。それでそのキツネが入ってこんようにほこらに特別なお参りをして結界をはりに行ってるんや」



第1・2の結果

で。」ということでした。わたしは、「そんな悪いキツネおったんや」と思いました。

南大貫の「きつねのおろよ」だけじゃなく、かじやの「かくしほちよじ」、ほかの村にもたくさんキツネに関するものが残っています。昔の人達は、この人をだますキツネを「三吉」とよんでいたようです。わたしは、この「三吉ギツネ」が気になったので調べてみようと思いました。



鍛冶屋地区のかくしほちよじ

## ◆三吉ギツネ伝説

よく言われているようにキツネは「化ける」のが得意で、夜に池で藻を頭にのせてきれいな娘さんに化け、男がふらあつとついて行ってしまふ。何もおかしいとは思わないそうです。山の方へどんどん迷いこんで歩いていくうちに夜が明けてしまうのです。



大きな家に見えていた灯籠

「なんでこんな所におるんやろ。さっぱりわからん。」という感じで化かされて、山からふらあつと出てきた男たちは、「三吉ギツネにやられたな。しっかりせえ。」と背中をたたかれたそうです。多くの人が化かされて迷惑したそうです。

三吉ギツネは、加西の飯盛山という所に住んでいて、加西にもこんな話があります。

道に迷った人がだれにも会わずに、心細くて途方にくれていたら林の中に明かりが見えた。大きな家があった、こんな大きな家ならとめてくれるにちがいないと思って「こんばんは、こんばんは。」と声を朝までかけてしまふ。その大きな家は、実は石の灯籠で、その灯籠に話しかけている人を見て、「あんた三吉ギツネに化かされたんや。この辺りは気をつけなされや。」と言っていたそうです。

福崎にもこういう話があります。

西光寺野を通りかかった男に、「もし、もし。」とよび止める若い女の声。それはそれはきれいな女の人で、「お願いしたいことがあります。どうかお聞きください。」と何度も礼をしながら言うので聞いてみました。すると、「実はわたしは飯盛山の三吉ギツネの家内でございます。昨夜、子どもを産むことができました。この通り、大変元気です。三吉さんが心配していると思いますので、安心するように伝えてくださいませんか。」と何度も礼をして頼んできました。男もキツネの優しい気持ちを受けて「よし、きつと伝えたるでえ。」と約束しました。男が、飯盛山のふもとで「おーい、三吉。西光寺野の方でお前のよめはんからのことづけや。昨日のばん、子どもが産まれた。親も子も元気やから安心せえ。聞こえたかなあ。」と言うと、「ご親切にありがとう。ありがとさんでした。お礼できるものがありません。これで辛抱してください。」と聞こえて、辺りが急に真っ暗になり、機織りをしているキツネのすがたが見えてきたそうです。男は「お礼したかったんやけど何もなかったんやろうなあ」と帰って行きました。この

ことがあってから、三吉ギツネを悪く言う人もなくなつたし、三吉ギツネも悪いことをしなくなつたそうです。

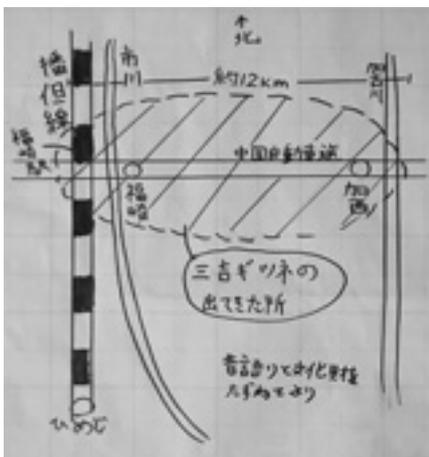


中島地区では、夜中にお医者さんの家の戸をトン、トンとたたたく男が来たそうです。「助けてください。お願いします。」と言われ、支度をして行ってみると、女の人が苦しんでいたの助けやると、毛深い子どもが産まれました。「元気な男の子が産まれたぞ。」と言って帰ろうとすると、「お礼は後ほど持って行きます。」と言われたそうです。何日か経って、大きな鯛を持って勝手口に立っている男が現れました。「先日のお礼を。」とのことでした。

また、何日か経って、魚屋さんから「この前、ええ鯛をキツネに持って行かれました。。」という話を聞いて、はっと思ったそうです。お宮の前を通った時にキツネの親子が並んでいたの、「もう悪いことをするなよ。」と言うと、「コン、コン。」と鳴きながら山に帰って行ったそうです。それからもう悪さをしなくなつたと言われています。

#### ◆まとめ

わたしは、この三吉ギツネを調べて、キツネはとても悪いものだと思つていましたが、このキツネは決して人を殺したり、傷つけたりすることはありませんでした。でも、たくさんの人をだましたのも本当のようでした。今も、この三吉ギツネを入れてこさせないための儀式は、福崎にはたくさんあります。「トンド」や「きつねのおろよ」、「かくしほちよじ」はそのためにあります。この儀式や三吉ギツネがずっと語り継がれるのは、昔の人の注意とそれに感謝して大事に思う気持ちがあるからだとわたしは思いました。三吉ギツネは、今もわたしたちをどこかで見てるように思います。わたしも三吉ギツネのお話を語り継ぎたいと思いました。



## 福崎町のお店について

第六回福崎町柳田國男ふるさと賞 小学生高学年の部 受賞

田原小学校六年 萩原京太郎・中野唯吹



中野 唯吹・萩原京太郎

てみました。

お店を出した理由は、「高速道路から近い」「インターチェンジが近い」「交通の便が良い」「他の町から来やすい」「広い道路に面している」「車の出入りがしやすい」といった回答がありました。

福崎町にはたくさんのお店があります。特に田原小学校のまわりに集まっています。人口二万人ほどの町にどうしてこんなにたくさんのお店がつくられたのか調べたいと思いました。

まず、予想をたててみました。「高速道路が通り、そのインターチェンジがあるから」「お店の前に広い道路があるから」「家が増えて買う人が増えたから」ではないかと考えました。人が集まりやすいところがお店に有利だと思つたからです。

次に調べる方法を考えました。その結果、お店にアンケートをお願いして福崎町にお店を出した理由を聞いてみることにしました。また、いつからお店をはじめられたかも聞いて

考えていた通り、交通の便の良さや広い道路に面していることをあげられるお店が多かったです。自動車で買い物に來られるので道路沿いの駐車場のあるお店はやるのだと思います。また、インターチェンジがあるので広い範囲からお客さんを集めることができるでしょう。

それだけでなく、「チェーン店の拡大のため」「同じようなお店がなかったから」「町が発展していく可能性があったから」「前の会長さんの出身地だから」「感動を提供するため」といった理由もありました。

お店は競争が激しいので似たようなものを扱うお店があるかどうかも大事なことだと思いました。

「家が増えた」という理由はありませんでしたが、「発展していく」ことを見越してお店を出されたことがわかりました。

アンケート結果から新しい発見がありました。二つのお店を除いて二十五年以内にできており、新しいお店が多いことがわかりました。二つのお店は四十年以上も前からやっておられるとのことでした。また、「昔はこの店の前がメインストリートだった」と教えていただきました。

先生にこのことを話したら、四十六年前の福崎町の地図をくださいました。それを今の地図と比較してみました。四十六年前には「中国道も播但道もなかった」「役場も今の場所になかった」「現在お店が集まっている地域は道路も家もなかった」「まだ田原中学校があった」「福崎大橋もそれにつながる道路もなかった」ことなどが読み取れます。また、二つのお店は四十六年前の地図にある道路に面しています。

福崎インターチェンジができたのが昭和四十九年。その後、道路が整備され、新しくできた道路にそって広い駐車場を設けたお店が、二十五年前ぐらいからたくさんつくられたということが今回の調査でわかりました。

アンケート用紙をつくったり、お店を訪問してアンケートを頼んだりするのは初めての経験でもとても緊張しました。でも、お店の方が優しく対応してくださったのでうれしかったです。どうもありがとうございました。

次はお客さんにどこから来られたのかをアンケートして、「交通の便の良さ」と福崎町のお店の関係をよくわしく調べてみたいと思っています。



<現在の田原地区>



<昭和47年の田原地区>

第六回福崎町柳田國男ふるさと賞 中学生の部 受賞

## 大歳神社の話

福崎西中学校二年 吉田 愛菜



### ◆はじめに

みなさんは「大歳神社」と聞いて、どの神社を思い浮かべますか。それはその人が住む地域によって違うと思います。なぜなら、福崎町には「大歳神社（大年神社）」が九社もあるからです。なぜ「大歳神社」が多いのか、そして実際にどのような神社なのかを疑問に思ったので調べてみました。

大歳神社とは「歳神を祀る神社」のことです。この「歳神」とは、一年の実りと幸せをもたらしてくれる神で、正月に門松・しめ飾り、鏡餅を飾るのは、すべて歳神様を心から歓迎するための準備だそうです。では、なぜ大歳神社が福崎町には多いのでしょうか。「大歳神社」「大年

神社」の件数ランキングによると、

- ① 兵庫県…二八〇件
- ② 広島県…六十五件
- ③ 島根県…二〇件

なんと、兵庫県の大歳神社の数が異常に多いことがわかりました。兵庫県内に二八〇社もあるなら、福崎町内に九社もあるのも納得です。また、中東播磨に集中していることも分かったため、大歳神社と播磨風土記の関係を調べてみたのですが、理解できそうな資料は見つかりませんでした。



神谷地区の大歳神社

## ◆福崎町内の大歳神社の見どころや特徴

調査した大歳神社は次の九社です。①優しい空気に包まれる桜地区の大歳神社②イチイガシの巨木は県郷土記念物に指定されている、百歳の森公園（スポーツ公園）に隣接する福田地区の大歳神社③新しいこま犬が魅力の神谷地区の大歳神社④コケ好きにはたまらない、コケが美しい西谷地区の大歳神社⑤ミステリアスな雰囲気がある加治谷地区の大歳神社⑥丸々としたこま犬と鬼瓦が目印の亀坪地区の大歳神社⑦木の門が素敵な南大貫の大歳神社⑧愛くるしいこま犬がいる大門地区の大歳神社。そして、⑨御神木でパワーみなぎる余田地区の大歳神社です。



愛くるしいこま犬（大門地区）

余田地区の大歳神社での見どころは、なんととっても、この境内にある大きな御神木です。よく御神木に手を当てたり抱きついたりして、パワーをもらう人がいますが、私はこの木に近づこうとしても、写真の距離が限界でした。どの角度から見ても迫力のある姿で、圧倒され、近づきたいけど近づきがたい、と感じました。私は八千種方面に初めてきて、そこでこんな素敵な神社と御神木に出会えるなんて思ってもいませんでした。この神社に来て良かったな、と思います。

また、余田地区の大歳神社ではおもしろい瓦を見つけました。みなさんは「神紋」というのをご存知ですか？家紋があるように、神社にも紋章がついています。余田地区の大歳神社の本殿の屋根についていたのは、丸に「竜胆」紋です。「りんどう」とは、秋ごろに紫の花を咲かせる植物の名前で、葉の形が笹に似ており、「ササリンドウ」とも呼ばれるそうです。この「竜胆」とは中国語で、根を噛むと苦く、まるで竜の胆のようだからこの字を当て、「リュウタン」の音が日本語にあまり、「リンドウ」となったそうです。

さらに、余田地区の大歳神社には、



余田地区・大歳神社の御神木

門があり、その門の中には和歌が二十五首ほど奉納してありました。作者名が読み取れて、解読できそうな四首は次の通りです。

①山部赤人「田子の浦にうち出でて見れば白妙の富士の高嶺に雪は降りつつ」②伊勢「みわの山いかに待ち見む年ふともたづぬる人もあらじと思へば」③紀貫之「さくらちる木の下風はさむからで空にしられぬ雪ぞふりける」④紀友則「夕されば螢よりにけに燃ゆれども光見ねばや人のつれなき」紀友則は、百人一首では「ひさかたの光のどけき春の日にしづ心なく花の散るらむ」が入っています。情熱的な歌と、のんびりした歌は対照的で同じ人が読んでいるとは思いませんでした。

普段何気なく見ていた神社を「大

歳神社」にしぼって調べただけで、兵庫県の特徴が分かり驚きました。

### ◆さいごに

今回の研究を終えて、次のような新たに調べたいことも見つけました。

- ・大歳神社と播磨風土記の関係
- ・鬼瓦について
- ・神紋について

など、次回調べる機会があれば、掘り下げてみたいです。また、神社を回る際に、緑がうっそうとしげったジャングルのような道を車で走ったり、神社を探しながら探検したりするのは初めての体験で、とても楽しかったです。狭いと思っていた福崎町の広さを知り、緑の豊かさを改めて実感しました。福崎町がもっと好きになったし、これからもっと福崎町のことを知りたいなと思います。

# 福崎町公民館クラブ 外国語グループのご紹介①

## メンバー募集中!!

### 福崎英会話サークル 火曜クラス(中級)

代表 大野 武二郎



私達、英会話サークルの歴史は、およそ25年を越えます。町内小中学校に英語を母国語とされるA-LTとして、初めてジョン・コルズ先生が着任されたときに、先生と教育委員会にお願いして、活動を始めました。その後、福崎町に來られた全てのA-LTに講師をお願いしてきました。

当初、外国の方との交流がそれほどなかった私達は、先生との交流の中で、カルチャーショックを受けることもありました。また、日本について説明するときに、私達がいかに自分の国のことを知らないのか、ということ学びました。今は、一日研修旅行やクリスマス会を行い、また他町のA-LTとも交流しながら、英会話を通して新しい発見を楽しんでいます。翻訳ソフトが普及しつつある現在でも、直接話して交流を図ることは大変大切なことだと思えます。

皆さん、一緒に英会話を楽しみませんか。

## レッツ エンジョイ イングリッシュ!

### 福崎英会話クラブ

代表 松岡 睦美

普段の生活の中では見落と  
してしまいがちな、ありとあ  
らゆるものが、英会話のモチ  
ーフとなり、充実した1時間  
30分はあっという間にすぎて  
ゆくのです。

時に愉快地、時に戸惑いな  
がら、私達にやさしく英語で  
表現する方法を教えてください。  
講師の忍耐と努力に感謝しつ  
つ、今夜も私達は文化センタ  
ーへ向かうのです。



ここ福崎町で、木曜日の夜は文化センターに出  
向き、約10名のクラスメンバーとの英会話を楽し  
む日々を過ごして数年。

明るい笑顔で受け答えしてくれるネイティブイン  
グリスユスピーカーの先生達とのひとときは、外国か  
ら来た彼等の文化を知ることだけでなく、福崎町に住  
む私達の生活や日本文化を伝える場としての役割を果  
たしているのかもしれない。

河童のガタロウ、ガジロウ  
風にそよぐもち麦畑  
柳田國男先生のことや  
福崎町に着いてすぐに参加する福崎夏まつり  
盛り上がる秋まつり  
七種の滝の水しぶき  
カラオケでうたう十八番曲  
スーパード買ったフルーツの値段  
にがくて甘い抹茶の味  
神社のおみくじは大吉がでないといけないのか?な  
どなど

# 福崎町公民館クラブ 外国語グループのご紹介②

## 中国語を通じて一緒に世界を広げてみませんか

### 福崎中国語教室

代表 中塚 喜博

お仕事で必要な方、中国語を通じて中国の文化や歴史に触れてみたい方、興味のある方は無料体験もできますのでお気軽にお越しください。お子さんから大人まで幅広く募集しています。ぜひ、私たちと一緒に言葉と文化の世界を広げてみませんか？



・会場 福崎町文化センター  
 ・日時 毎週土曜日9時～10時と10時～11時の2クラス  
 ・指導者 吳明華（ウメイファ）北京出身  
 福崎中国語教室では、現在会員数10人です。平均年齢は55歳で、和気あいあいと活動しています。男女の割合は、男性2名、女性8名です。  
 経験豊富な先生が優しく丁寧に指導して下さり、アットホームな雰囲気の中、初心者の方でも気軽に楽しく中国語を学べる場となっています。  
 また、研修旅行や新年会など楽しいイベントもあります。研修旅行において中国語で現地の人々と楽しく交流し、意思疎通できたときこそが中国語を学ぶ醍醐味であると感じています。中国語は漢字を使いますので、日本人にとっては、他の外国語に比べ、馴染みやすく、また、中国語使用人口も世界的に多いため、中国語を習うと世界も広がり、旅行でも大変役に立ちます。

お問い合わせ先：福崎町文化センター公民館クラブ担当（TEL 0790-22-3755）まで

### 第三十七回 福崎町美術展作品募集

第三十七回福崎町美術展（公募展）の作品を募集します。皆様方のご応募を心よりお待ちしております。

会期 二〇一九年

五月十七日（金）～

十九日（日）

会場 福崎町エルデホール

主催 福崎町

福崎町教育委員会

部門 日本画・洋画・書・

写真・彫塑工芸

応募は一部門一人一点

未発表の作品に限る。

作品搬入

二〇一九年

五月十一日（土）

午前九時～午後四時

審査員

日本画 安恵 隆司

洋画 志智 正

書 岡本 正志

写真 山岡 成男

彫塑・工芸 大上 巧

### \*表紙の写真\*

表紙の絵は、松岡映丘作「太平楽」の本画で、柳田國男・松岡家記念館に画稿とともに所蔵されています。

（縦一三一×横四一センチ。昭和三年）



### 編集後記

たくさんの方々のご協力により、福崎町文化第三十五号を発刊することができました。

玉稿をお願いしました皆様方には大変お忙しい中執筆いただき、ご協力くださいましたこと厚く御礼申し上げます。

ありがとうございます。